

第5回前橋市歴史まちづくり協議会議事録

開催日時：令和7年5月19日（月）午前10時00分から午前11時40分

開催場所：前橋市議会庁舎3階 301会議室

出席者 委員

手島会長、戸所副会長、村田副会長、石井委員、川端委員、日下田委員
川合委員、片貝委員、高松委員

事務局（都市計画課）

五十嵐都市計画課長、川崎副参事、中林副主幹、齋藤主任
庁内

大友課長、荻原副参事、吉田係長（以上、文化国際課）
神宮課長、寺内副主幹（以上、文化財保護課）

1 開会

（事務局） 新任の委員より挨拶（川合委員、片貝委員、高松委員）

2 報告

（1）令和6年度計画進捗評価について

（事務局）事務局より資料に基づき説明があった。

【2（1）に係る質疑応答】

（川端委員）

資料10ページについて、群馬総社駅の整備事業が評価軸とどのようにリンクするのか説明をお願いしたい。

（事務局）

群馬総社駅は歴史的風致維持向上計画において重点地区に指定している総社山王地区内にあり、地区内における玄関口であるとともに、地区の顔とも言えるということで、その整備計画は歴史的風致維持向上計画に位置づけられていると確認している。また、群馬総社駅の駅舎、自由通路及び西口広場については、総社らしさを残したいとの地元住民の希望があり、それをどのような形で設計に反映できるか、地域においてWSを重ねる中で基本設計としてまとまったところである。今後、総社山王地区のテイストといったものを、広場や造形の中で少しでも反映できる形にしていきたいと考えている。

(川端委員)

今後の動きに期待したい。

(戸所副会長)

今回の群馬総社駅の整備は機能的に、吉岡町側によりメリットがある形である。従来からの東口側は渋滞の解消という点では良いのだが、総社の古墳や旧街道、天狗岩用水など色々なものを考えると、もっと東口側にも重点を置いてよかった。私を含め東口側の住民からすると、オーバブリッジができたとしても、一旦線路を超えていくような形になる。今、商業開発が進んでいる側に利便性の比重をおいて大きな道路整備などがあり、そうするとかつての総社地域の都市開発のごとく、市街地を広げることが歴史的なものを壊しながら新しいものを作っていく形にならないか。以前、手島会長がおっしゃったように、なぜ駅の設置当時に改札を東口に作ったかという、岩神町など当時の前橋市内の市街地との関連がある。こうした様々な歴史的なつながりというものを駅の構造の全体像として捉えず、現在の立地分布で機能的にやっていっていると感じている。この辺りの歴史的なことは私も当初は説明会などで申し上げていたが、ほとんど効果はなかった。結果としては駅近くの住民などせまい範囲意見で計画していると私は思う。いずれにしろ歴史まちづくりの立場として、前橋がこれまでどのような流れの中で成り立ってきたか、それとの関連付けや、今回の歴史まちづくりの核になっている総社地区の文化財と駅の開発をどのようにつないでいくか、総社の文化財は駅から歩いて行ける範囲にあり、そうした環境を活かす方向でもっと戦略的にやってもいいのかなと思った。

(手島会長)

事務局の発言にあった地元の方の望む総社らしさというのは、具体的にどういったものなのか。

(事務局)

大変難しいが、総社らしさというのが例えば象徴的な形のようなものなのか、それとも住民の意識なのかという所もあり、色々議論を重ねてきたところである。その中で、群馬総社駅の西口広場は、ただ単に電車に乗るための施設ではなくて、群馬総社のみなさまが快適に一日を過ごせるような、そういった活用の仕方、考え方というところで総社らしさを見出していくと考えている。また、造形的なものに関しても、なるべく例えば駅舎のテクスチャなどというところには総社らしさを反映させていくとかそういうところの議論はされている。住民の皆様にも様々な思いがあるため総社らしさの具体化というのは中々難しいが、実施設計を進めていく中で検討を進めていくということになっている。

(戸所副会長)

もし総社らしさというものを考えるとすれば、駅というのはある意味ではよそからきた人たちをこの地域に迎えるときの一つのゲートウェイということで、そこに何らかのイメージがあれば良いのではないか。それを通じて今まで長い間、数百年積み上げてきた歴史が活かされるような、JR が中々やらないようなことについて税金を使ってそれを活性化させるとか、そういうことを考えると駅の周辺のことだけを考えていても総社らしさというのは出ない。総社地区には本間酒造と山賀という酒造会社があ

った。本間酒造は市に建物を寄付しているが十分な活用につながっていない。歴まちの視点からは本間酒造をもっと活用するための総社駅であるべき、あるいは西口側の吉岡町の商業開発の流れを呼び込んで、前橋の市街地の活性化を目的とするならば、それに見合った開発の仕方というものがあると思う。渋川方面から来る人達が新前橋で乗り換えて前橋駅に回るよりは群馬総社駅が便利だったら、そこから前橋の中心街にアクセスするであろう。それがどんどんだめになったから、もう、新前橋駅で乗り換えず高崎駅に人が流れる形になっている。そういう人の流れ全体や、あるいは総社の中で考えれば駅から少し歩くと国史跡二子山古墳、天狗岩用水にかつて存在した全国で5番目の発電所跡があり、そこから遊歩道を下れば数百メートルで愛宕山・宝塔山・蛇穴山の総社古墳群や総社資料館がある。総社地区の歴史的資源を、こうやればうまくリンクできるということや、人の流れとしてどう考えるか、という議論があまり行われていないと感じる。例えば群馬総社駅を降りたときに総社地区の全体としての歴史的なエリアがわかるようなしなかけを考えると、か、今までの歴史的資源を活かしてまちづくりを行っていくという視点から考えているのか疑問に感じる。

(手島会長)

地元との議論での総社らしさというのは、歴史とはあまり関係がないのか。

(事務局)

歴史的というところの観点もあるが、それを具体で設計の中で歴史性であるとかそういったものをあらわすか、そこの結論はまだ出ていない。例えば、群馬総社の駅のホームから通路を渡って上に上がると赤城の景色であるとか榛名の景色であるとかが大変美しく見えるというのも地元の皆さんは総社らしさであるというお話もある。そのあたりは例えば自由通路からの見晴らしには当然反映されている。ただ、先程のお話もありました本間酒造であるとか古墳であるとかが、具体の設計に反映されているかというところとまだその段階ではないというところである。

(手島会長)

そういう点で、行政が少し歴史に言及してもいいのではないか。例えば、たまたま前橋に安田レンガ倉庫が残っていると、住民から前橋のイメージを聞くと前橋はレンガだという話になるが、実はそれは前橋の歴史とは少し異なるので、住民の声はもちろん大事だが、やはり歴史というものを行政が示した中で、議論して結論を出さなければいけないと思う。

(高松委員)

大正時代に建てられた東口の旧駅舎は、どうなってしまうのか。また西口側には日新電機に引込線があるが、そのあたりの活用は考えていないのか。

(事務局)

東口の駅舎に関しては、基本的には保存できない、移築に関しても議論にはなったが、たしか存続ではないような、それを地元とは協議をしているという状況のようである。駅舎の3次元的に測量は行ってデータでは残っている。引込線については把握していない。

(手島会長)

駅舎は壊してしまうのは、決定なのか。

（事務局）

駅舎のデータを 3 次元的に測量して、データは残している。

（手島会長）

総社駅の改札口をどちらにつくるかは、大正 10 年の設置当時からの総社町を 2 分するほどの大問題であった。その中でも前橋のために改札を東口にして駅舎を作ったのであれば、駅舎は前橋にとって重要な歴史的建造物といえる。簡単に建物を壊してしまうのではなく十分に議論を尽くして欲しい。

（村田副会長）

評価シート 6 ページのところで、上毛倉庫が登録有形文化財に指定されたりそこでマルシェが行われたりしているとあるが、それを計画通り進捗していないとしている。民間の動きが活発になっており、ヒストリア前橋がアクエルに開館するなど、市だけではできないことをやっているが、そういうものを今回のまちづくりの中にどう位置づけるのかははっきりしていない。そうしたことについて市の見解をお聞きしたいというのもあるが、もっと民間団体の方と話し合いをしていって、この計画の中に組み込んでいけば、計画どおり進捗しているのではないか。

歴史博物館のなかった前橋にデジタルのヒストリア前橋が開館したことは凄いことで、市にできなかったことをやったわけなので、これ全体を見れば計画どおり進捗していると言えるのではないか。確かに当初の計画になかった内容ではあるが、民間でやっていることは棚に上げて、市だけでやるというレベルの話ではないのではないか。自分たちができなかったことをやってくれたのだから進捗しているのではないか。日下田委員も入っていただいてまちづくりの取り組みをやっていただいたのだから、それが何も出てこないのはどういうことなのか。だから前回協議会の中で現場を見たと思う。民間の事業について今後どうするのか、取り入れるのかどうか検討すべきである。民間事業について私はきちんと評価すべきだと思うし、行政でできないことは民間にお願いしてもよいのではないか。以上のことについて市の見解をお聞きしたい。

（事務局）

計画当初の予定していた事業としては、進捗していないためそのようにさせていただいた。民間の動きを評価しないものではないため、進捗しているに修正したい。

（村田副会長）

クリエイティブ構想や民間の登録文化財などをきちんと把握をして、その中で歴史まちづくりをどうしていくか、その中で国がどこまでやるか、県がどこまでやるか、市がどこまでやるか、それぞれの役割分担を調整して進めるべきではないか。

（事務局）

今のご指摘について先生のおっしゃるとおりである。これまでも前橋市は官民連携でまちづくりを進めているので、今回の国際コンペにしても前橋クリエイティブシティ構想にしても、当然、国・県・市で役割分担をして進めて行く業務だと考えている。上毛倉庫のマルシェなどは今後のクリエイティブシティ構想の中でも関わってくる

大事なところだと思う。そういったところも含めて前橋市としても民間の方々、地権者の方々と話を詰めていかなくてはならないが、それは先行して地元の方々が事業を進めていただいている。それは評価の指標としてよいと考えるため、先生のご指摘を踏まえて計画通り進捗していると修正をかけたい。

（石井委員）

村田先生のおっしゃったところは、そうかなと思うところもあるが私は少し違うのではないかなと思っている。民間は頑張っているが市のほうが足りないということであればそこははっきりしたほうが良いと思う。国に対する心象が悪くなるとか、補助金の問題がでるとかであれば、それを優先したほうが良いと思うが、市としての状況を明確にしたいというならば、そうしたほうが私は良いと思う。また、前橋クリエイティブシティのコンペは結果が出て、これから披露されたり説明会が行われたりすると思うが、その中で気になっているのは最後に残った五作品の中には前橋の歴史を描いているものがあつたが、コンペの優勝作品には歴史的な要素は少なかったように思う。前橋には歴史まちづくり計画もあることなので、そういったことをきちんと踏まえて、ただ単にまちのデザインが新しくなるということではなく、そういったところを、もう一度ちゃんと一緒にやっていきながらということをしかり議論に加わってもらって意見を言ってもらいたい。きれいになり、デザイン性があがることは素晴らしいことだが、歴史的な要素を含めての前橋らしさということを経まちのほうから強く言っていただきたい。国、県、市で管轄が分かれる部分もあると思うが、前橋の部分だけなのかという話にもなるし、県庁前通りのところは城趾でもあると思うし、その辺のとも取り組んで意見を言ってもらって反映されるように努力してもらいたい。

（村田副会長）

14ページのところで、本来歴史まちづくりをするうえで基本的な調査をせずに計画策定しているうえに、去年も予算要求が通らなかったということで、それがどうして計画通り進捗していることになるのか。このことについては、委員になったときから言わせてもらっていてもう3年目になる。調査もできない、総社の登録も順調に進んでいない。単なる聞き取りの調査だけで歴史的建造物を決めているのである。上毛倉庫さんは自ら調査して登録していただいたわけだけれども、調査を進めれば他にも登録できる建造物だってあるかもしれない。予算が確保できないという中で今後の見通しをお聞かせいただきたい。龍海院の酒井氏墓地のところにも関連するが、確かに記載のとおりであるが、国の登録文化財として進めるまたは市がまず文化財指定してもよいと思う。文化財保護課と連携して進めていると思うが、そういったところがどうなっているのか非常に疑心暗鬼なわけである。今後の都市計画課と文化財保護課との連携の在り方や、少なくともそれを課題としてどこまでを都市計画課がやってどこまでを文化財保護課がやるのかという役割分担をきちんとしていかないといけないのではないかなと思う。次回までには、予算をとっていくことや、どういう調査をやっていくなどの方針をきちんと考えたほうが良い。

（事務局）

まず計画通り進捗しているというのは、文化財保存活用地域計画事業と併せて、文化財保護課とも連携して進めていこうと考えている。文化財保護課のほうでも、職員体

制を充実させるとのことなので今後も連携して進めていきたい。

（村田副会長）

11ページのところで、埋蔵文化財も重要ではあるが、そればかりでなく建造物も出てくると思う。そういったものの啓発を一つもやらないというのはいかがなものか。上毛倉庫が登録有形文化財になったことをどう思っているのか、安田レンガ倉庫などもある、他にもあるわけなので、そういった意味でも特に歴まちに関係するような建造物の説明会をやるべきで、ここに埋蔵文化財のことがあがってくるのは歴まちになってない気がする。歴まちの普及活動というものをもっとやったほうがいいのではないか。

（事務局）

前回の報告内容を踏襲して作成したものであるが、歴まち計画の評価としてふさわしくなかったということか。

（村田副会長）

ここでの話は、都市景観をどうするかということではないか。総社の問題も含めて、そういう点で注意喚起をして民意を醸成していくことが歴史まちづくりで一番必要なことである。ほとんど埋蔵文化財しかやってきていないのではないか。今まで都市計画に関しては基本的に歴史的なことを取り入れるかということをやってきていないので、歴まちだからこそやるべきで、県民会館一つとっても景観的な件もあるが、前橋市がそれをどう考えるかについて表に出てきていない。景観の重要性や歴史的建造物の重要性をもっともっとアピールしていかなければ、一般市民はその価値を認識できないのではないか。

（事務局）

まちづくりとして進めていけるように検討していきたい。

（手島会長）

今年度の上毛倉庫が登録有形文化財になったことを皆さんにわかってもらえる講演会ができるのか。

（事務局）

上毛倉庫についてできるかはわからないが、何かできるように検討していきたい。

（村田副会長）

埋蔵文化財関係が国指定や史跡になると、行政サイドが講演会をやっている。建造物になると担当者がいないということかもしれないが何もしていない。施主がやっているだけ。そうではなくて、上毛倉庫が登録文化財になったのなら、せめて市として行政が建物の価値を伝達する講演会を実施すべきである。そういう意味での連携が欲しいわけである。まさにその辺りが抜けているのではないか。

（手島会長）

前々から昭和2年に建設された旧駅舎を再建するという話があった。上毛倉庫があ

って、旧駅舎が再建され、ヒストリア前橋ができて、市民文化会館内に前橋空襲と復興資料館ができて、ケヤキ並木も含めて駅周辺の風致の維持ができる。まさに前橋駅は前橋の玄関口だから、ヒストリア前橋で前橋の歴史を概観し、前橋のまちを回るといふ仕掛け作りを目指してやっている。ぜひそういう観点から上毛倉庫が国の有形文化財に登録されたのならば、駅周辺の歴史的風致をテーマに講演会などを開いて皆さんに周知を行いながら、関連施設の利用促進と連携をやっていくことが必要なので、是非それは都市計画課が音頭をとって進めていけばいいのではないかな。

(高松委員)

6 ページに関連して、天狗岩用水といっても南北に広く続いているところではあるけれども、周辺環境整備とあるが周辺とはどの辺りのことを指しているのか、全部なのか部分的なことなのか確認したい。

(事務局)

基本的には天狗岩用水の中でも重点地区(総社山王地区)内に入っている区域になる。具体的に述べると植野稲荷神社があるあたりから、古墳群のあたりを事業的には想定している。

(戸所副会長)

植野稲荷神社までいくと所謂昔からの天狗岩用水の雰囲気ではない。それから奥の方は完全に暗渠になってしまっている。総社駅から降りてきてまっすぐ東に向かうと橋のところで天狗岩用水にぶつかり、そこから遊歩道に入れる。蛇穴山古墳をすぎて箕郷までいく県道の手前までは遊歩道で、写真に乗っているような形である。それでいうと、歴まちの前橋としてどうお考えなのか、広く全体としてまちづくりのものとしてなのか、単純に国の予算をシビアに考えながらするためのものなのか。というのも、総社駅から天狗岩用水にはいるところまで大規模開発をしている。昭和時代は法面に割と自然石を使っていることが多いが、それ以降の時代はコンクリート仕様である。評価シートに5 ページに天狗岩用水の発電所の写真があるが、これは明治時代にできた日本で5 番目の発電所である。この横にコンクリートになっているところがあり、ここは20 年前までは崖だったのが、直角に擁壁を作って開発を行って上に住宅地を整備した。この現在、北側に残っていた農地を開発している。今後開発をしていくときどういう整備をしていくのか、歴史まちづくり計画をせっかくやっているのに景観がどんどん変わっていってしまうのはいかがなものなのか。どこまでの権限があるかわからないが、私のこれまでの経験でいうと例えば都市マスとの関係なり、他の文化財なりとこの歴まちの場合は連携させて、ある程度整備的なものも含めてやっていかないと中々歴史まちづくりというのはいかないと思う。せっかく協議会があり予算があるので、これをきっかけに前橋の雰囲気を転換させて、市民が歴史まちづくりという感覚を持つだけでも、また庁内がそれに向かってやっていくというだけでも、今回の計画が意味あるものになり、将来に大きな無形の財産として残せるのではないかなと思う。

(高松委員)

15 ページの郷土芸能は、すでに有名になっているものが掲載されているが、その他の地域にも様々な郷土芸能があらうかと思う。こういったところが対象になっている

のか。

（文化財保護課）

教育委員会に郷土芸能連絡協議会団体名簿がある。助成金は郷土芸能連絡協議会に支出し、その中で調整していただいている。

（２）計画書の軽微変更について

（事務局）事務局より資料のとおり説明があった。

【２（２）に関する質疑応答】

（村田副会長）

文化財保護課が策定しようとしている文化財保存活用地域計画についてだが、できればその中に所謂到達目標というか、具体的に市の指定文化財をいくつにする、歴まちとして登録の件数をどのくらい目指すのかが入ってきたほうが良い。どの計画をみても数の目標まであるものは少ない。難しいと思うが文化財の登録・指定件数をどのくらい目指すのか、そうしたレベルのことまで定めておいたほうが、最終的に多くの文化財を残していけると思う。

登録をできるだけやるというのであれば、総社地区で何件、厩橋地区で何件かを目標にしたり、勿論他の地区も含めてもいいと思うが、文化財の登録や指定の計画を考えたりした方が良い。

３ その他 令和７年度予定事業等について

（事務局）事務局より資料のとおり説明があった。

【３に関する質疑応答】

（川端委員）

事前に前橋市の予算を成立させた議会の資料を拝見したところ、結果として予算のつき方が良くない。それは予算査定の結果ではあるかと思うが、この歴まちというのが国の補助事業かつ歴史まちづくりということで、最終的には我々の事業にも絡んでくる交流人口の増加につながることを期待しているところである。他の団体との議論の中で、厩橋地区の歴まちに関する意見には、例えば本丸御殿（博物館）とか旧前橋駅舎のことなど様々な課題について言及されている。すぐには中々解決しないであろうが、こういった議論のなかで一定程度協議会の意見にあることもやっていかないと、後の予算もつきにくくなってしまうのではないかと思うが、現段階での市の意見をお聞かせいただきたい。

（事務局）

市の財政も厳しい状況にあり、例えば今のお話にあった本丸御殿（博物館）や旧駅舎の整備といったハード整備事業に中々結びつかないところがある。今、市の内部でもどれを優先して進めるべきかという議論を含めて進めており、中々今すぐにはハード整備には結びつけられないところである。

（手島会長）

そうした状況もあって今後の協議会のありかた、議論の在り方も含めて委員の皆様から意見をいただきたい。

（戸所副会長）

今回の協議会資料を見て、この協議会としての戦略性が欠けていると感じた。本丸御殿などのハード整備事業は、本当にやるかどうかの議論で10年くらいかかるのではないか。そこに実際の予算をつけてやるとなると、私自身の京都での経験からいうと淡々と進めても成就するまでに20年はかかったと思う。その前に仕切り直しをやっていくうえで、予算請求の顔出しをするときにどこがバックアップしていくのか、市の内部だけでは潰されてしまうことがあるので、外部でもいいし、この協議会としての意見を打ち出せば随分と違ってくるのではないか。本丸御殿については、私が耳にするだけでも賛否両論が随分あるので、世の中に出ればかなりの論争が巻き起こるのではないか。しかしながら、この協議会の意思は何なのか、歴史まちづくりの核となるものは何なのか、本丸御殿がそうなのか旧前橋駅舎がそうなのか、色々議論すればいいし、計画に位置づけられている事業のうちの何を核とするのか、市民の感覚を燃えさせて、はじめて歴史まちづくりのムードが出てくる。それに対応するというのは大変だと思うが、現実問題として市民の中で議論が盛り上がっているということがあれば、執行部も予算をつけてやっていかなければならないということになる。そうしたことが実現できるような戦略を考える協議会である。看板の設置に関することは、ある程度方向を決めたら専門部会におまかせしたほうがいい。人から嫌がられ叩かれるような議論もやるのがこの協議会であると感じている。何か打ち出しをしてこれだけはやりたいのだということ、それに関連してそこに行くためのその周辺を埋めていくという形でやっていくようにしないと、どういう前橋の歴まちにしていくのかということにしていけないと、前橋から文化的に重要なものが潰されていってしまう。これからの時代というのは新しく拡大するよりは今までの積み上げを大切にしていくほうが、将来的にずっといいものになるだろうと考える。また、色々な建物があるところにはその時代の文化の多様性というものがある。これが積み上がってきたときに、その地域の個性や多様性が生まれてくる。どうも前橋は歴史的なものを蔑ろにしているなというのが正直な印象である。せっかく歴まちというのをやるのだから、市民のムード高揚のきっかけづくりをして、それによって論争が起こっても良い。それによって歴史まちづくりへの認識が高まり、そういうしかけをすることで、市の各部局の横の連携も進み、予算部局も何か考えなければならないということになるのではないか。予算的なことに対しては市民がどう考えるかの議論の結果をもって、無理のない形でやっていくことが前提だが、まずは議論が起こるような仕掛けが何か必要なのではないか。皆さんの意見もお伺いしたい。

（村田副会長）

戸所先生に同感だが、先日文化財保護課の方の文化財調査委員会で、水戸の歴史まち

づくりを見てきたが、ここは大手門と二の丸の隅櫓の復元を行っている。それもスタートは、一般市民の寄附金が集まったところから始まり、それから、まちも復元事業に取り掛かりはじめたとのことである。こうした動きは、群馬県はまれで皆のまちづくり、皆の文化財という感覚がない。今回のまちづくりもほとんど一般の方は認知していないのではないか。そういう意味でいうと総社に養蚕農家がある、あの民家にどれだけの価値があるのかということをも前橋市民が認識しているかということ、1回や2回の勉強会を開催したくらいでは伝わらない。私の今までの経験でいくつかやってきているが、基本的に2ヶ月に1回は学習会・勉強会をずっと行い3年も続けていけば、そこから大きな動きも出てくる。群馬県ではじめに歴まちがはじまったのは甘楽町である。そのあとに群馬県下でやっているのは桐生だが、先に伝建群がありその後に歴史まちづくり計画を重ねているのである。

そういったときに、前橋は何を戦略としてやっていくのか、例えば前橋駅周辺など、少なくともどの事業を核にしてやっていくのかが抜けているため、その議論をしなければならない。前橋市の都市景観について述べるべきは群馬県ではなく前橋市である。前橋市が都市景観の在り方をきちんと市民に伝えるべきである。それには色々な考え方があっていいと思うがそういうことをやっていない。私はある意味ではハード整備事業のようなことができないとしても、皆がまちづくりに参加するとか、皆の文化財でなんとかやっていきましょうという動きがでるだけでも凄いことだと思う。ある意味ではソフトの組織づくりで行けばいいと思う。予算がないと言うなら研修会や講演会などで機運を盛り上げることが大切である。10年間の計画期間でめがけているところに、大手門の石垣の復元をするレベルの話だけでは足りないのではないか。建物を作るような事業は賛否両論があることなので、その議論をする事自体で、都市のあり方を皆さんが考えるようになる。そういった機運が高まるだけでも、この協議会があったことは素晴らしいことだと私は思っている。また、委員各々で持論があると思うので、今後はそういう議論を行う協議会にしていきたい。有志にお金をだしてもらい仕掛けを作ったり、全てを市がやるというのは大変なので、いかに民間の方と協働したりするかということも大切である。できればそういう方向性について、次の協議会には市としての考え方を示してほしい。

(手島会長)

3カ年を振り返ってということで、石井委員と日下田委員からも意見をいただきたい。

(石井委員)

私自身は前々から大手門と車橋門とか県庁前の広間の土手とか水路だとかはきちんと整備して啓発したほうがいいと考えてきた。今回ちょうどいいのはクリエイティブシティのコンペが行われて整備するお金が出てくるわけだから、川端委員のご指摘とおり、市の予算が厳しくなっているのであれば、そこに絡めながらやっていければ相乗りできるというか、ある意味チャンスかなと思うので是非そういうところをふくめて攻めていっていただければありがたいかなと思います。

(日下田委員)

皆さんの意見交換を聞きながらですが、歴史まちづくりの推進は誰がするのか母体が

見えてこないと感じている。市が作成した資料は大変なワークだと思うが、これを実際に市民の活動に落として持続的にやっていくのは誰なのかということがわからなくなってくる。去年までの議論で歴史的建造物の復元事業では温故創新というキーワードをつくったが、今年の事業計画にどこが温故創新なのかということがあまり私には直感的にわかってこないし、これをどうやって市民に温故創新という言葉に浸透させて、具体的なアクションにつなげていくのか、それを都市計画課だけに負わせていくのは無理だと思うし、どこでどうやっていくのかなと思っている。総社の話もすごく立派な歴まちビジョン「重なり合うまちの風景」というコンセプトを作って、群馬総社駅の整備事業以上に色々なことをやろうとしているが、誰がどのようにやっていくのか見えてこないなと思う。

MDC の活動で参考に申し上げると、例えば今毎月第3土曜日にクリンナップ&コーヒークラブ(CCC)という活動をやって、掃除活動はいろんなところで伝統的に行われていると思うが、馬場川の CCC ではせっかく集まった人が対話したりまちを眺めながら、問題意識を共有したり、各々がどのような活動をしているか披露したりする機会にする活動を1年近く続けていて、毎回40人くらい集まってくれている。市民を具体的に巻き込んで、か自然と集まりたくなるようなアクションにしたりするのを誰がどこで演出するのかを議論したほうが良いと思う。簡単なことではないが大事なところではないかと思う。

(手島会長)

財政というのは、いつも厳しいと思う。水戸市の例もあるが、いつ前橋にも高額の寄附があるとも限らない。やはり戦略的な議論をする場に、この協議会をしていくべきである。観点としてはこれ以上歴史的風致を壊さず、いかに維持向上させていくにはどういうことで、いいタイミングで戦略的に事業化していくというならば、現市長も迷惑ではないと思う。すぐに何か建物をつくれということではないので、次回以降は事務局には議題を用意してもらいたい。前橋空襲と復興資料館ができたが、皆さんに視察をしていただくと、よく前橋が空襲によって何もかもなくなったと言われているがそうではない。全国でも110の都市が焼けているが、例えば富山市も空襲で100%近く焼けたわけだが、歴史的な遺産を復元してまちづくりが行われている。前橋は区画整理で古い物を壊し、首都圏整備を背景に150万都市を作るため、まちなかのものをどんどん外に出して、その跡地に何も作らないので、更地状態が続き、どんどん風致が壊されてしまった。今後テルサがなくなり県民会館がなくなり更地になってしまうと、風致が失われ質感のない街になってしまう。そうではなくて、質感のあるまちにするにはどうしていくのか戦略的な議論をしていくことが大切である。賛否両論があると思うが、まずは議論することが大事なわけである。結論に対してすぐお金をだせということではなく、ただ議論があったことでお金持ちのひとが10億円だしてくれれば色々なものもできる。尼崎市では個人が15億円寄付して天守閣を復元している例もある。そういうふうな発展的な議論ができるかもしれないので、協議会ではそういった戦略的な議論をしてきたいと思う。

(戸所委員)

歴史や景観に取り組んでも何にもならないという人もいるが、景観のきれいなまちや歴史的風致のあるまちほど、将来性のある企業は進出したがる。これからのまちと

というのは歴史風致の在り方にそのまちの感覚というものが現れ、そこにお金が集まってくるようになるだろう。私自身の経験でも、かつて立命館大学に在籍していた頃に、新しいキャンパスをつくる事業に対し、とある企業が十数億の寄附をしてくれて、そのことがその後の地域の産業の活性化につながった。核となる大きな整備事業のあとに、経済の動きが生まれてくるというのは、これまでにまちづくりに関わった中で感じることである。今は大きな予算をもってくるというのは難しいが、なんとか前橋が良くなっていてもらいたいので、歴史まちづくりの議論により、いい方向に展開していけばよいと思う。

また、総社資料館に歴史まちづくりの取り組みがわかるような広報をしてほしい。総社を訪れた人が、歴史を辿って街歩きができるような広報をしていてほしい。冊子には出ているが開けてみる人は少ないので、いろいろなツールを使ってやっていてほしい。

(文化財保護課)

総社資料館の廊下のところに街歩きについてはパネルを作成して展示をさせてもらった。歴まちの詳細関係は今後展示できればと思う。

(村田副会長)

前橋では麻屋デパートを壊してしまったが、渋川で渋川商工会議所を壊す動きがあったときには、約一万人の署名が集まり、私が経験した中で唯一保存された。歴史的建造物の大部分は壊されてしまう。麻屋デパートは、全国的に見たときに百貨店の歴史の中で、建てられた年代も早く特筆すべきものであった。都市化を語る際にデパートは重要で、高島屋や三越が重要文化財になっている。今まで近現代の建物は文化財という感覚がなく、基本的に文化財行政は埋蔵文化財が中心である。所謂今回の地域計画の立案というのは、そうした文化財行政の視点を変えていく機会だと思う。未指定文化財の中で認知されていないものを、価値付けて文化財として指定したり登録したりして、それを周知していくことだと思う。単純に一つの事業をやれということではなくて、文化財・歴史文化が大事だという視点に変えていくために、今回の歴史まちづくり計画で市民と一緒に走り出していくというのは非常にいいことである。未指定文化財の建造物の調査と指定は進んでいないのではないかな。歴史的建造物において公費で保護されているものはほとんどなく皆個人の努力で保たれている。これらのものを価値があると評価していかないと、守っている当事者達も腰砕けになってしまう。市として歴史まちづくりをやっていくという広報をどんどんやってほしい、また文化財指定になったものの価値の伝達の機会をもっともっと増やしてほしいと思う。様々な取り組みを重ねて、新たな文化財指定・登録を進めていくことが、歴まちの一つの大きな成果になるような気がする。

4 閉会